

農林水産大臣賞受賞

富士山集落の「たなだ・かんきょう・みらい」を大切にしていきます

ふじやましゅうらくかつせいかきょうぎかい

受賞者 **富士山集落活性化協議会**

(群馬県利根郡川場村)

■ 地域の沿革と概要

群馬県北部に位置する川場村は、ほたかやま武尊山の南麓に広がる自然豊かな農山村で、村全域のうち約83%を山林が占めている。村内には、村名の由来となる薄根川うすねをはじめ四本の一級河川が流れ、また川場温泉など五つの温泉が村を潤している。平成30年度末における住民基本台帳人口は3,308人であり、近年、過疎化・少子高齢化傾向にある。

総基幹産業である農業は、こんにゃく・酪農・果樹（りんご・ブルーベリー・ぶどう等）や米を中心に栽培している。特に米については、川場村産コシヒカリが「雪ほたか」の名称でブランド化され全国的にも高い評価を得ており、観光産業施設（ホテル田園プラザ・道の駅川場田園プラザ・川場スキー場・世田谷区民健康村）と連携した「農業プラス観光」の施策を展開している。

また、東京都世田谷区と昭和56年に「縁組協定」を結んで以来、活発的に都市と農村の交流事業が現在まで続いている。

第1図 位置図



第1表 地区の概要

事項	内容
地区の規模	集落
地区の性格	地縁的な集団等
農家率 (内訳)	42.3%
	総世帯数 980戸
	総農家数 415戸
専兼別農家数 (内訳)	専業農家 78戸
	1種兼業農家 33戸
	2種兼業農家 141戸
農用地の状況 (内訳)	総土地面積 8,525ha
	耕地面積 561ha
	田 201ha
	畑 360ha
	耕地率 6.6%
	農家一戸当たり耕地面積 1.4ha

注：村全体の数値（H27）

専兼別農家数は販売農家数の内数のため、総農家数と一致しない。

■ むらづくりの概要

1. 地区の特色

富士山集落は、川場村の中でも最も山間部の傾斜地に位置し、集落の戸数は26戸である。農村景観の保全と農地の荒廃防止を考慮して、機能優先の基盤整備は行わず、棚田での稲作が行われている。村内には、平成26年度国土交通省「全国モデル道の駅」に選定され、年間190万人もが訪れる道の駅「川場田園プラザ」があるが、車で10分足らずの富士山集落にはその賑わいは届かず、静かな里山空間が広がっている。

2. むらづくりの基本的特徴

(1) むらづくりの動機、背景

先人達の知恵が結集した石垣の棚田を守りながら暮らしてきた富士山集落では、急速な少子高齢化と生活形態が変化するなかで、大型機械が導入できず生産性の悪い棚田で稲作を行う農家が近い将来いなくなり、棚田が荒廃し今の景観が失われてしまうとの大きな懸念が生じた。



写真1 富士山集落遠景

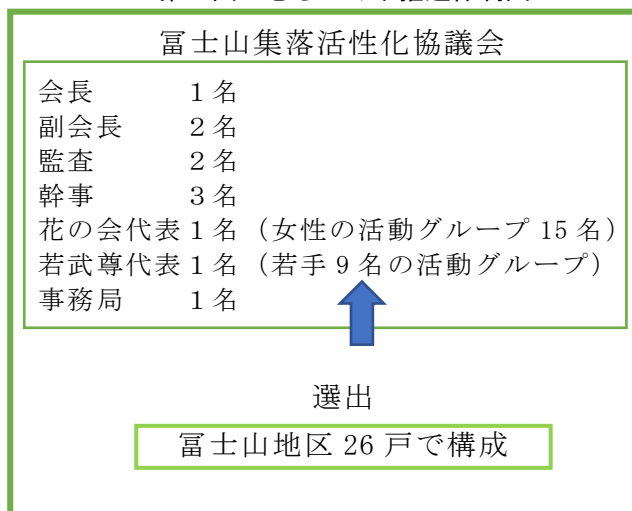
集落では、「富士山集落の里山環境や文化を未来に継承していくために何ができるのか」を課題に、集落でどのように取り組むかを話し合った結果、集落を元気にすること、集落独自の活性化が必要と考え、平成27年2月に集落の全戸が参加して「富士山集落活性化協議会」（以下「協議会」と表記する。）を発足させ、里山環境や棚田を生かした都市との交流や景観保全で地域の活性化を目指すことになった。

(2) むらづくりの推進体制

ア 当該集団の組織体制

- ・名称：富士山集落活性化協議会
- ・設立：平成27年2月
- ・会員数：26戸
- ・役員数：8名

第2図 むらづくり推進体制図



イ 当該集団と連携してむらづくりを行う他の組織、団体との関係及び行政機関との関係

- ① 川場村：協力関係
- ② 世田谷区：「冬×ふじやまプロジェクト 2020」等協力関係
- ③ 株式会社世田谷川場ふるさと公社：協力関係
- ④ 東京農業大学：地域創成科学科と連携
 - ・富士山地区で実習演習
 - ・当協議会の冬と夏のプロジェクト等に学生サポーター参加
- ⑤ 東邦レオ株式会社：都市部のマンションとの相互交流
- ⑥ ブラウシア（千葉市内のマンション）管理組合：相互交流 棚田オーナー



写真2
学生サポーターの参加

■ むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

協議会では、集落全体でワークショップやディスカッションを重ね、棚田（た）、環境（か）、未来（ら）の3つの言葉からとった「た・か・ら」を守る活動を事業目標とし、棚田を生かした都市との交流や景観保全など地域の活性化を目指し、集落住民自らが里山環境や文化を守り継承していくための活動を活発に実施している。

具体的には、棚田オーナー制度を通じた都市部住民との交流活動、教育機関や学生達と共同した里山保全活動の実施、紅花を使用した商品の開発・販売など豊かな自然や地域資源を活用したむらづくりに取り組んでいる。

2. 農業生産面における特徴

（1）紅花栽培・加工品の生産・販売

平成28年から、休耕田を活用するために集落の女性グループ「花の会」が中心となって紅花栽培を始め、現在では、紅花入りりんごジャムや紅花茶の商品開発に取り組み、イベント等で来訪者へ販売している。

3. 生活・環境整備面における特徴

（1）棚田オーナー制度

平成30年から、千葉県千葉市のマンション管理組合と連携して棚田オーナー制度を試験的に開始し、現在まで18組の参加、延べ約200人以



写真3
棚田オーナーによる田植え

上のオーナーが生まれ、都市と農山村の交流が進展している。

(2) 集落の環境整備

河川や農道、遊歩道の整備について、大学等の教育機関、その他の団体と連携・協力体制を構築し取り組んできており、里山・棚田環境の改善が現れている。

(3) 都市住民との交流

棚田オーナー制度や体験プログラムのほか次のようなイベントを開催しており、都市住民との交流が進み、令和元年度における交流人口は延べ約750人と、協議会を設立した平成27年度と比べ約3倍となっている。

ア 冬×ふじやまプロジェクト

真冬に富士山集落に人を呼ぶこととして、平成28年から毎年実施。集落で余っている竹を用いて竹灯籠を作成し、来訪者との交流に取り組む。



写真4 冬×ふじやまプロジェクト2020

イ 夏×ふじやまプロジェクト

夏のイベントとして、令和元年に開催。川辺と水車小屋を舞台に交流を目的としたイベント。

(4) 女性の社会参画

集落の女性グループ「花の会」が紅花栽培・加工品開発販売・紅花染めの体験プログラムを行う他、都市との交流イベント等では郷土料理でのおもてなしをするなど協議会活動の一翼を担っている。



写真5 古民家での紅染め（乾燥）

(5) コミュニティ活動の強化

かつては、集落内の家々で行われていた冠婚葬祭が、生活形態の変化とともに集落外の施設で行われるようになるなど、集落の人が集まる機会が減少していたが、集落の活性化のために様々な事業を展開したことで交流機会が増加し、コミュニケーションが盛んになっている。

協議会の様々な事業を共同で進めるうちに、集落内では人と人との繋がりが活性化し、コミュニティ活動として強化が図られている。